令和５年度　多摩区地区研究報告

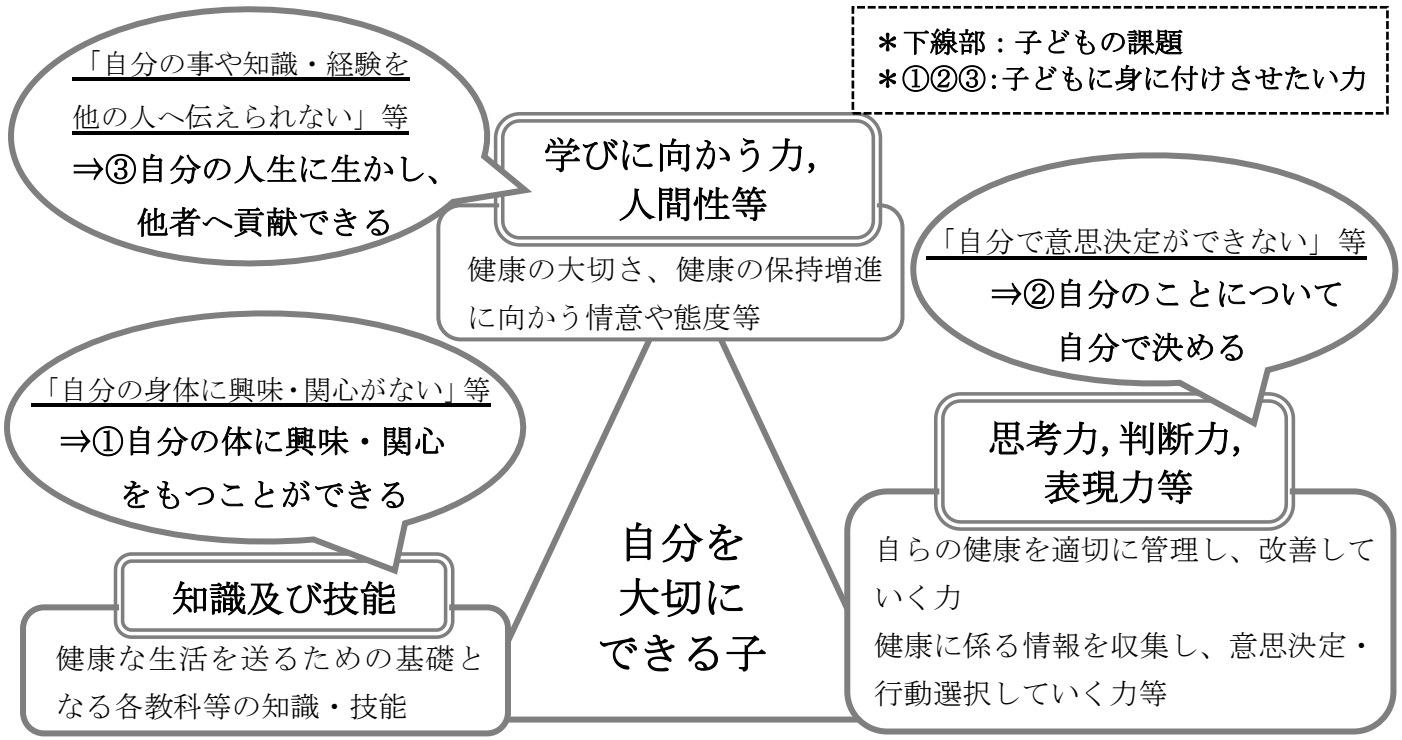
１．研究主題

「自分を大切にできる子の育成～『パワーアップシート』を活用した保健室経営～」

２．研究主題の理由とねらい

多摩区養護研究会では、「健康、安全等に関わる育成すべき資質・能力『心身の健康の保持増進に関する指導の資質・能力の育成のイメージ』（文部科学省）」に明記されている三つの柱【知識及び技能】【思考力, 判断力, 表現力等】【学びに向かう力, 人間性等】に伴う３つの力を、子どもたちがバランスよく身に付けることで、どのような健康課題に直面しても解決していけると考え、「自分を大切にできる子」をめざす子ども像として研究を推進した。さらに、三つの柱に沿って計画的に実践するために「パワーアップシート」を作成し、めざす子ども像に迫るツールとして、パワーアップシートが有効であったか明らかにすることを本研究のもう１つの目的とした。

「自分を大切にできる子」の育成を目指す資質・能力の三つの柱イメージ



「健康、安全等に関わる育成すべき資質・能力
『心身の健康の保持増進に関する指導の資質・能力のイメージ』」　文部科学省

３．研究内容

保健教育を軸に、以下の３つのグループに分かれてねらいを設定し研究を進めた。パワーアップシートをもとに三つの柱に沿って実践を進め、子どもたちがこれからの生活に生かせるように３つの力をバランスよく身に付けることを目指した。また、実践後には、パワーアップシートのアンケートを行った。

①体育科（保健領域）「体の発育・発達」

・自分の気持ちや状態を相手が分かるように伝えることができる

・自分の体と同じように相手の心と体も大切にできる

②特別活動（学級活動）「目の健康」

・目を大切にするための行動を考え実践できる

③特別活動（児童会活動）「ほけん目標に沿った保健委員会の取組」

・「ほけん目標」と関連づけた学校での取組を保健委員会児童が自ら学び、全校児童へ情報発信し、けがへの予防意識を高めることができる

実施日		研究内容	会場
1	４／１９(水)	紀要原稿の作成・検討	登戸小学校
2	５／１７(水)	紀要原稿の作成・検討	登戸小学校
3	６／２１(水)	紀要原稿の作成・検討	登戸小学校
4	７／１２(水)	研究指導助言：川崎市総合教育センター 指導主事　野口 裕子 先生	登戸小学校
5	７／２６(水)	研究紀要原稿確認・訂正作業、発表報告会役割分担 スライド・発表原稿作成	登戸小学校
6	９／２０(水)	修正後紀要原稿確認	登戸小学校
7	１０／４(水)	スライド・発表原稿読み合わせ	生田小学校
8	１１／１５(水)	紀要原稿の最終確認、スライド確認 研究協議の柱について検討	登戸小学校
9	１２／２０(水)	研究報告会準備(研究紀要発送作業)	稲田小学校
10	１／１０(水)	発表リハーサル	高津市民館
11	１／１７(水)	研究報告	高津市民館
12	２／２１(水)	研究報告会の反省、研究のまとめ	登戸小学校
13	３／６(水)	来年度へ向けての検討	登戸小学校

4．研究成果

子どもたちは、「自分の体に興味・関心をもつことができる」と、「自分のことについて自分で決める」ことができるようになり、子どもたち自身が「自分の人生に生かし、他者に貢献できる」ように、他者へもはたらきかけるようになることが分かった。多摩区養護教諭からも、パワーアップシートの使いやすさや、パワーアップシートが保健室経営に関わること全てに活用できることなどが挙げられた。このパワーアップシートを活用した取組は、３つの力をバランスよく育み、健康課題を解決するために有効な手立てであったと言える。また、多摩区養護研究会では、パワーアップシートを活用した実践内容について、全体で共有し情報交換する時間を大切にしてきた。その結果、効果的な使い方として、保健教育だけではなく、年度途中で見えてきた健康課題に対する取組やほけんだよりや掲示物、児童保健委員会活動など、どのような取組にも活用できることが分かった。

5．今後の課題

一つ目に、子どもに身に付けさせたい力の設定が不十分であったことが挙げられる。三つの柱とリンクさせるのであれば【思考力,判断力,表現力等】の部分で「自分で決めて行動する」ことを身に付けさせたい力（目標）として設定し、子どもが意思決定して実践できることを目指して研究を進められると良かった。

二つ目に、「③自分の人生に生かし、他者へ貢献できる」という目標へのアプローチに難しさを感じた。今回パワーアップシートを使用して実践を進めたことで、これまで、「他者や社会とのかかわりに関する視点」が欠けていたり、考える機会が少なかったりしていたことが見えてきた。今後は、「他者や社会との関わりに関する視点」も大切にしながら、子どもたちがよりよい人間関係を形成できるような指導・支援をしていきたい。